

2023. 6. 2

No.064

2023 夏季手当要求に対する上野支部見解

コロナが2類から5類へと引き下げられ、海外からの旅行客も増えインバウンドの需要も右肩上がりとなり、2022年度期末決算において3年連続の黒字を達成することができた。会社発足から36年の歴史の中で初めての赤字経営を克服するため現場第一線で働く仲間が奮闘してきたことは言うまでもない。

会社は営業利益について、目標の1000億円に届かないこと、有利子負債もコロナ前と比較し1兆円増加していると慎重な姿勢を見せている。また、GW輸送について昨年と比べて140%まで回復したものの、またもやコロナ前と比較して100%に達してないという回答に終止している。以前会社は「コロナ前には戻らない」と言いながら、社会構造が変化した中でコロナ前と比較する事は理解に苦しむ。

今年のGW輸送では、コロナ前の9割まで戻ったことを見れば、少なからずコロナ前に戻りつつあると断言できる。3.2ヶ月+10万の要求は決して無謀ではない。これまでのコロナへの対応の苦勞、構造改革、コストダウン、変革、連携と融合、一人ひとりの働き度が増え、収入が激減、貯蓄を切り崩す生活を3年間強いられてきた。我慢の限界を、全社員が一丸となって黒字にしたのであり当然の要求である。

一方、現場が奮闘し、黒字回復した利益を大規模都市開発に注ぎ込もうとしている会社の姿勢に現場で働く仲間は怒っている。必要な設備投資として今それが必要なのか？人への投資を何故考えないのか、それでもまだ社員の皆さん頑張れと言えるのか、社員を大切にしないJR東日本の企業体質が浮き彫りになってあらわれている。私たちは絶対にそのような行為は許さない。

改めて、昨年の夏季手当についての確認事項である2点目「黒字を達成した際には社員への還元を実施すること」を会社として守るべきであり、社員への期待と、将来を展望するなら履行すべきであること強く訴える。

2023年6月2日
JR東日本輸送サービス労働組合
上野支部

上野支部

夏季手当要求に対する支部見解を發出！